

日蓮聖人門連だより

発行
日蓮聖人門下連合会

〒146-8544
東京都大田区池上1-32-15
電話 (03) 3751-7181

平成26年2月16日
第49号

明日を開く



本門法華宗管長(大本山妙蓮寺貫首)
松下日肆

ある新聞が「国を滅ぼす大将、馬鹿な大将、利口過ぎる大将、臆病なる大将、強すぎた大将のタイプ」を紹介していた。私達仏徒はどれに該当するのかを考



日漢聖人墓

えさせられる。ここで先ず妙蓮寺を紹介したい。妙蓮寺は日像菩薩の開基で永仁二年(一一九四)の創立で華洛最初脱履の道場と称し、一時

本問答記にも見え、本満寺文章にも記されているように、国を滅し、法華衆徒に害を施す大将を諷める行為と思う。天文法華の乱は『座中文記』に、一揆に全く無関係の一般市民にも被害が及んだとあり、その中に僧中では一乗寺日輝、妙覺寺日兆、妙蓮寺日將、妙蓮寺日漢らが乱兵に殺害され、花の都は修羅場と化したとあり、法華一揆は殆ど英雄的な防戦であるとも記している。先に記した、国を滅ぼす大将を、馬鹿でもない、臆病でもない、先師が活動した時代を振り返って見ました。以来幾十年、歴代先師先哲上人は、聖祖の遺訓を守り続け、明治の廃仏毀釈、慶応四年(一八六八)の仏教排撃運動は寺院、仏像破壊僧侶の還俗強制と発展した。

先師の御苦勞を思ふ時、その時代時代の教訓を私共が学ばなければならぬ点が多々あると思ふ。京都日蓮聖人門下連に至つても、法華経の弘通、お題目の広宣流布のため、各々尽力してきた。十六本山の活動は、昭和三年十一月十日十六本山会主催で提灯行列大行進を実施したとあり、十六本山会は別に京都立正会を結成して布教に努め、昭和二十年十月一日から共同募金赤い羽根運動を始めている。昭和二十七年京都仏教会主催の四月八日釈尊御生誕の聖日、花まつりを奉修し各宗派輪番で行う当番寺が日蓮宗であると伝達あり、京都日蓮宗第一部長務所長は、日蓮宗独自でなく法華各派共同で奉行してこそ、本当の花まつりとなることを力説して法華各派十六本山結集を呼びかけ、花まつりを厳修し、これを期して聖祖門下連合会が発足。昭和三十三年十月九日復活の御会式報恩万灯提灯行列が毎年執り行われた。また昭和三十六年七月二十五日から四日間、京都會館に於いて世界宗教者平和会議が開催され、これを期に聖祖門下十六本山の復活にも尽力した先師は本山立本寺の細井日苑院下でもあった。私も妙蓮寺衆徒としてお手伝い致し、現在も細々と平和会議に参加しています。昭和三十八年聖祖門下連合会夏季講習、昭和四十年聖祖門下連合会を発展させ、京都日蓮聖人門下連合会と改名し、充実した組織作りに着々と進み現在の京都門連の時代となりました。昭和四十六年この年は日蓮大聖人御降誕七五〇年に当たり、京都門連は京都新聞社との主催で十月十九日より二十四日までの十六日間、京都府立総

合資料館に於いて「生誕七五〇年記念・日蓮展」を開催しました。京都門連は今も明日へ向かって前進を続けている。平成二十五年十月九日京門連六十周年記念大会を開催、全門連の先師多くの先達を迎えて盛大に開催されたことは喜ばしい限りでありました。討論会では教育的な問題、現世の問題、自然環境の問題、歴史社会等の問題と様々でしたが、パネラーと出席者の間の討論は、現在世相に対してどう対処すべきか等々が話題となりました。門連ゆえに出来る事業の実施も話し合われ、その中で感じは、聖祖の「夫れ佛法を学せん法は必ず先ず時をならうべし」の教訓である事を痛感しました。前に記した、「馬鹿な大将」はいませんが、



妙蓮寺本堂

今「臆病なる大将」が多くて困るでは何事も進まない。残すところ七年、聖祖の御降誕八〇〇年(二〇二二)を門下が一丸となつて事業を企画するのか、また各宗派毎に企画実施するのかも今は未知数である。全国各門連が提唱し、各派が積極的に研究し実行していく事も考えられる。全門連は「利口過ぎる大将」を解けば、頭は切れる能力は結集して明るい、人々の意見は先に聞いている。良くも悪くも後は実行のみでは何も進まないと思つたので、聖祖の御降誕八〇〇年は、門下等しく抱える問題を考える場の提供として、万全を期して企画案を想定するか、門連全体会議で案を練ること等を考慮してほしいと今は願うのみであります。

從地ゆじゅつ

◆教育基本法第九宗教教育
第一項に宗教は尊重すべきこととされている。第二項は憲法の政教分離の規定を受けて、国立学校の宗教的中立性が示されている。私立学校では時間を設けている学校もあるが、公立ではあまり教えられていない。尊重されてしかるべき宗教なのに……。日本はやはり仏教を学んでもらいたい。子供のころから仏教教育を徹底すべきである。

◆日本人はマヒしている。宗教を嫌いながらも、一方では宗教団体と与党に思われている。今や、それがおかしいと思われていない。政教分離を理解していない、そのような某団体の教義を学ぶ必要はない。仏教の根幹である思想を取得することが重要なのだ。教えていいことと悪いことの違いを教育者はなぜ分らないのか。

◆オウム・アレフや富士大石寺頭正会などによる宗教被害がある。子供のころから先祖や仏教に身近に接している人間であれば、バカバカしい被害にあわないだろう。被害にあう人はそのバカバカさに気が付かない。それは仏教を学んでいないからで、悩んだ時だけ神頼みをするからだ。仏教を学んでいないと変な宗教であっても、それが正当だと思ひ込む。そしてどっぶり入つたら最後、友達もいなくなり依存してしまうのだ。

◆人間らしく生活するために、仏教を簡単に教えられる環境づくりと、仏教が身近にあるという意識改革が必要である。これにより日本の教育は誇れるものとなる。

◆某国のように排他的・攻撃的ではなく、静かに観察する日本の姿勢は仏教の教えに通じる。自由気ままにやられても平然と対処する日本人は、一方で苦湯を吞むこともあるが、それは協調性・社会性に特化したものであり、素晴らしい結果を招くことにつながる。

◆僧侶ももっと教育をうけ、自慢ではなく自信をもってもらいたい。ある宗派が髪の毛を伸ばしている。理由は「なぜ坊主にする必要はあるのか」という発言からだ。髪の毛を伸ばすという行為は別に、そのような意見が出るのがいささか疑問だ。ただ、遊びに行くときに僧侶であることを知られたくないからである。僧侶こそ仏教教育を叩き込まないといけない。布施行も僧家はかりに行わせ、本来行うべき僧侶が行っていないということもある。近所に、朽ちた本堂の脇に近代的な庫裏？が立ち高敷車を洗車している僧侶がいる。それで仏教は嫌われる。我々僧侶が身をもって仏教を示し、教えていかなければならない。(全戸)

《各派のページ》 第五回 「法華宗真門流宗門内外で活躍する僧侶」



法華宗真門流総本山本隆寺執事長
総本山塔頭・本城院住職

足立真正(光嶽)さん

重文指定(本堂・祖師堂)

現在、総本山本隆寺執事長を拝命して二期六目になります。平成二十年に「総本山本隆寺造営準備会」なるものを立ち上げ、本堂大改修の必要性を吹聴し始めました。

平成二十三年三月に念願の「総本山本隆寺平成大改修委員会」が宗内を網羅して組織されました。そして、平成

プロフィール

あだち しんしょう(こうがく) 昭和二十五年一月京都市生れ。大谷大学文学部卒。総本山塔頭で生まれ育ち、宗務・山務の事務方として長年活躍する。「書」を古谷普韻(芸術院会員)に学び四十年。日展会友(入選二十八回)・読書書法展常任理事(審査員二回)・日本書道院評議員。

二十四年一月に趣意書発送となったのです。当門流にとりましては、破格な金額勸募の大事業となりましたが、御開山日真和尚の御加護を信じてひたすら奔走する日々でありました。

ところが、平成二十五年初頭から思わぬ展開を見せます。三百五十年強の歴史を有する総本山本隆寺本堂・祖師堂が、並列に建つ様式も含めて「歴史的価値の高いもの」であるとして、国の重要文化財指定の方向に動き出したのです。半信半疑のまま春夏が過ぎ秋になり、十月十八日に新指定の答申が新聞紙上に掲載され、テレビ・ラジオ

プロフィール

ほんだ しんしょう(いさみ) 昭和二十五年京都市生れ。昭和四十八年青塔社入塾。池田通郎先生に師事。昭和四十九年日春展入選。昭和五十年日展入選。青塔社社員。

を感じる。世間一般では、お寺さんで絵を描いておられるっていいですねと相通するものがあるかのように言われます。

十六歳の時より日本画を学んだ。それまで日本画というものは水墨画だと大きな勘違いをしていた。依って初めに手にした絵具には驚きでした。試験管のような容器に入った片栗粉や砂に色が付けたような絵具は美しかったです。今でも忘れられません。

日本画をやり始めて、七年目に池田通郎先生の塾に誘われ青塔社に入塾させていただいた。その当時は師匠(当時あちこちに先生という人々がいた)で我が塾の者だけが勝手に他とは違う呼び方をしようという(こと)で、の絵は

でも放送されました。私達にとりましても、余りにも唐突で何か狐につままれたような出来事でした。大変感激しておりますが、今春大改修工の予定がずれ込むのは残念ではありません。

「読売大賞」受賞

全く非力な私が立場上あれやこれやと、身に過ぎる責任を負っているのですが、案外心平静に乗り越えることが出来ています。これは一にも二にも宗内の皆々様の御尽力のおかげ、御開山日真和尚の御加護であると感謝しております。それと今一つは、大好きな「書」が心の杖になつてくれたからではと感じております。

大改修の雲行きが思いにまかせず、心に暗雲が立ちこめることは度々でしたが、たとえ十分でも二十分も時間があると、筆を手にして半紙に向っていました。好きな古典を臨書している一瞬にして至福の時が訪れ、心の憂さが晴れるのです。

そんな中、昨年の夏読書書法展第三十回記念展に於いて、グランプリの

「読売大賞」を受賞しました。まさに青天の霹靂、本人も含め誰も予想しなかった結果でした。今振り返ると、十書きき込む時間は無かったのですが、その分下品な書も出なかったのです。受賞作を書いた時のことを思い返してみようと、作品の山場で筆が割れ過ぎ「あッ」と声がかもれた後、どう書いたか覚えていないのです。その覚えていない部分が無心で書けていて、大変良いとの評でありました。



読売新聞掲載「心」

運・鈍・根

習い事・芸事が成就するには、巡り合の運、目移りしないでこれしかないといった不器用さ、それに根気が必要だと言われます。私は二十三歳の時、先輩の紹介で古谷普韻先生の門下に加えていただきました。先生がどんな方だか何も知らないままでした。「言葉

で伝えられる事はしれたものです。後には自分で盗め」と繰返し聞かされたものです。先生の教えは「花は心、種は態(わざ)なるべし」(風姿花伝)の言葉に収斂すると理解しています。私は二十歳の頃、突然寺を継ぐ立場に立たされ、何も彼も一からの勉強でしたが、取分け字には劣等感がありました。字形は言わずもがな、まともに線が引けなかつたのです。柳の葉のように、一つの線の頭と尻尾が止まらなくて尖ってしまうのです。見るも無慚なものでした。

そこで、何とかせねばと大学で書道クラブに入部したのが「書」との出合いでした。ところが基礎的な勉強はそつち退け、作品を書く面白さにはまっています。手でも何でも構わず作品を書く快感に病み付きになりました。その歳まで何一つまともにも出来てこなかった慙愧の念もからまり、字ばかり書いていた時代がありました。継続は力なりと言いますが、四十年も続けていますとそれなりに恰好が付くようです。

いつの日か、法華の僧として何かが自然に発露した作品が書けることを夢見ています。

ければなりません。



2012年こころの京都百選「茶源郷」



第46回日春展「或る日或る時」



第56回青塔社展「水温風」

眺める目と対象物のうちから見る優しい目によって自らのかけがえのない尊いものを育ててきたのです。そんな師匠の背中を見て、僅かな間でも同時代にいられたことを糧に今も描き続けているのです。作品を描き出すと思ひ通りに行かない歯がゆさ腹立たしさがいつも起こります。それが面白い楽しい快感なのかも知れません。自然の中で写生をするのが好きです。五感に触れ合える自然の中にいると時間を忘れず。そんな意識と感性をもつていつも作品制作にかかっているので……。

感性豊かで情熱を持ち続ける心があつてこそ今を描き続けているのです。師匠のように何を見ても感動できる深い精神性を身に付けたいものです。こうしてまた絵を描き続けさせていただけるとは万物万人すべてに感謝しな

時我及衆僧 俱出靈鷲山

団参のご用命は 大陸旅遊

インド・ネパールはもちろん中国シルクロード・スリランカ・ミャンマー・ラオス・ベトナム・ブータン・アンコール遺跡等へのご旅行手配もおまかせ下さい。

観光庁長官登録旅行業第1399号/日本旅行業協会正会員

株式会社 大陸旅遊

Tairiku Tours & Leisure co., LTD. TEL 03-3376-2511 FAX 03-3376-5280 http://www.tairikuryoyu.co.jp mail: tlc@tairikuryoyu.co.jp

●東京本社 〒160-0023 東京都新宿区西新宿5-5-6 第2ダイヤモンドビル2階

日蓮宗宗務院

宗務総長 小林順光 財務部長 中川法政
 伝道局長 齊藤憲一 宗務総長室長 小林正雄
 総務局長 塩崎望巳 現代宗教研究所長 三原正資
 伝道部長 大塩孝信 参 与 山口裕光
 教務部長 田中文教 参 与 吉田海心
 総務部長 風間随修 日蓮新聞社社長 草ヶ谷秀人

〒146-8544 東京都大田区池上一-三二二-一五
 電話 〇三(三七五二)七二八一
 FAX 〇三(三七五二)七二八六

法華宗(本門流)宗務院

管 長 平 田 日 範
 宗務総長 二 瓶 海 照
 庶務部長 金 井 孝 顕
 布教部長 久 永 晃 顕
 教務部長 三 吉 廣 明
 財務部長 清 水 常 光
 山 田 庸 温

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町二一九-一
 電話 〇三(五六一四)三〇五五(代)
 FAX 〇三(五六一四)三〇五六

顕本法華宗宗務院

管 長 山 本 日 恵
 宗務総長 朝 倉 俊 幸
 宗務次長 藤 崎 行 学
 教務部長 早 川 義 正
 庶務部長 阿 曾 久 成
 社会部長 湯 原 純 勇
 布教部長 桑 村 信 慶
 財務部長 河 野 時 巧

〒606-0015 京都市左京区岩倉幡枝町九一
 電話 〇七五(七九二)七二七一
 FAX 〇七五(七九二)七二六七

法華宗(陣門流)宗務院

管 長 石 丸 日 然
 宗務総長 佐 古 弘 文
 総務部長 牧 野 秀 成
 教務部長 布 施 義 高
 教化部長 今 井 満 良
 財務部長 金 原 孝 宜
 企画部長 山 岸 観 深

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨五-三五-一六
 電話 〇三(三九一八)七二九〇
 FAX 〇三(三五七六)〇二二一

本門佛立宗宗務本庁

宗務総長 木 村 日 覚
 宗務副総長 西 村 日 要
 宗務副総長 植 松 常 二 郎
 教務局長 亀 井 日 魁
 弘通局長 植 田 日 事
 総務局長 藤 本 日 唱
 広報局長 澤 田 日 松
 財務局長 西 村 日 勲
 奉賛局長 藤 本 日 涌

〒602-8377 京都市上京区御前通一条上多東堅町二一〇番地
 電話 〇七五(四六一)一六六(代)
 FAX 〇七五(四六四)五五九九

日蓮本宗宗務院

管 長 丹 治 日 遠
 宗務総長 原 田 智 光
 財務部長 原 智 光
 総務部長 二 瀬 智 光
 教務部長 原 光 明

〒606-8362 京都市左京区新高倉通孫橋上ノ法皇寺町四四八
 電話 〇七五(七七二)三三九〇
 FAX 〇七五(七七二)五九一四

法華宗(真門流)宗務庁

管 長 田 仲 日 紘
 宗務総長 堀 智 泰
 総務部長 木 村 完 祥
 教務部長 堀 内 浩 善
 教化部長 加 藤 順 昭
 財務部長 上 田 泰 源
 社会部長 峰 尾 泉 栄

〒602-8447 京都市上京区智恵光院通り五辻上ノ紋屋町三三〇
 電話 〇七五(四四一)五七六二
 FAX 〇七五(四四一)五六六六

本門法華宗宗務院

管 長 松 下 日 肆
 宗務総長 藤 井 日 靖
 総務部長 増 田 隆 雄
 宗務部長 吉 村 日 彦
 財務部長 土 畑 信 教
 教務部長 山 田 岳 隆
 庶務部長 高 邊 晶 啓

〒602-8418 京都市上京区寺之内通大宮東入大本山妙蓮寺内
 電話 〇七五(四五二)三二二七
 FAX 〇七五(四五二)三五九七

宗教法人 国柱会

賽 主 田 中 壮 谷
 理事長 原 田 義 彦
 門連理事 本 間 直 暉
 門連常任理事 藤 本 坦 孝
 門連理事 森 山 真 治
 編集委員 的 場 春 奈
 編集委員 的 場 春 奈

〒132-0020 東京都江戸川区一之江六一一九-一八
 電話 〇三(三六五六)七二二(代)
 FAX 〇三(三六五六)九九八〇
<http://www.kokuchukai.or.jp>

京都日蓮聖人門下連合会

会 長 田 仲 日 紘
 副会長 伊 丹 日 章
 理事長 足 立 真 正
 副理事長 藤 井 照 源

京門連事務局
 〒602-8447 京都市上京区智恵光院通五辻上ノ紋屋町三三〇
 電話 〇七五(四四一)五七六二
 FAX 〇七五(四四一)五六六二

日本山妙法寺大僧伽

首 座 吉 田 行 典
 責任役員 酒 井 天 信
 同 今 井 行 康
 同 池 田 行 朗
 同 二 宮 和 嘉
 同 木 津 博 充
 同 川 岸 行 孝

日本山妙法寺大僧伽事務局
 〒150-0045 東京都渋谷区神泉町八一七
 電話 〇三(三四六一)九三六三
 FAX 〇三(三四六一)九三六七

大阪日蓮聖人門下懇話会

理事長 東 孝 信
 副理事長 原 光 承
 顧問 奥 邨 正 寛
 顧問 三 田 村 宗 鳳
 顧問 木 下 惠 温
 顧問 藤 村 惠 容
 顧問 門 谷 光 瑞
 顧問 中 村 日 游

〒582-0020 大阪府柏原市片山町一九番二一
 電話 〇七二(九九七)九八〇六
 FAX 〇七二(九九七)〇一八四

<p>頭本法華宗総本山 妙満寺</p> <p>〒606 0015 京都市左京区岩倉幡枝町九一 電話 〇七五(七九二)七二七一 FAX 〇七五(七九二)七二七六</p> <p>貴首 山本 日恵 執務 吉永 義康 執事 山本 晃道 執事 中村 英司 執事 湯原 正純 執事 小川 正義</p>	<p>法華宗(本門流)大本山 光長寺</p> <p>〒410 0011 静岡県沼津市岡宮一〇五五 電話 〇五五(九二二)〇四八四 FAX 〇五五(九二二)〇七三六</p> <p>貴首 石田 日信 執事 久保 木学洋</p>	<p>日蓮宗大本山 池上本門寺</p> <p>〒146 8576 東京都大田区池上一一一一 電話 〇三(三七五)一三三三一 FAX 〇三(三七五)三三五〇</p> <p>貴首 酒井 日慈 執事 野坂 法雄 役員 一同</p>	<p>日蓮宗総本山 身延山久遠寺</p> <p>〒409 2593 山梨県南巨摩郡身延町身延三五六七 電話 〇五五六(六二二)一〇一一 FAX 〇五五六(六二二)一〇九四</p> <p>法主 内野 日総 総務 井上 瑞雄</p>
<p>多寶富士山 日蓮本山 本山要法寺</p> <p>〒606 8362 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八 電話 〇七五(七七二)三三九〇 FAX 〇七五(七七二)五九一四</p> <p>貴首 丹治 日遠 執事 原田 智光 執事 二瀬 智光 執事 原 光明</p>	<p>本門法華宗大本山 妙蓮寺</p> <p>〒602 8418 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五 電話 〇七五(四五二)三五二七 FAX 〇七五(四五二)三五九七</p> <p>貴首 松下 日肆 執事 音羽 隆全 役員 一同</p>	<p>法華宗(真門流)総本山 本隆寺</p> <p>〒602 8447 京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇 電話 〇七五(四四二)五七六二 FAX 〇七五(四四二)五六六六</p> <p>貴主 田仲 日紘 執事 足立 真正 執事 本多 信正 執事 永岡 悠希 執事補 笹木 研吾</p>	<p>法華宗(陣門流)総本山 本成寺</p> <p>〒955 0845 新潟県三条市西本成寺一〇一〇 電話 〇二五六(三三三)〇〇〇八 FAX 〇二五六(三三三)〇〇五九</p> <p>貴首 石原 日然 執事 笹原 壯玄 執事 平井 良光 執事 栗田 孝之 執事 荒川 公孝 執事 近藤 正文 執事 五十嵐 義昭</p>
<p>日蓮宗大本山 出家得度の霊跡 清澄寺</p> <p>〒299 5505 千葉県鴨川市清澄三二二一 電話 〇四(七〇九四)〇五二五 FAX 〇四(七〇九四)〇五二七</p> <p>別当 二宮 日敬 執事 宮崎 雅宣 役員 一同</p> <p>団参には是非、研修会館をご利用ください。 一六〇名様まで可。</p>	<p>京都 法華門流懇話会</p> <p>法華宗(真門流)総本山本隆寺 貴主 田仲日紘 頭本法華宗 総本山妙満寺 貴首 山本日恵 本門法華宗 大本山妙蓮寺 貴首 松下日肆 法華宗(本門流)大本山本能寺 貴首 菅原日桑 本門佛立宗 大本山本能寺 貴首 菅原日桑 本門佛立宗 本山有清寺 講有 山内日開 日蓮本宗 本山要法寺 貴首 丹治日遠 法華宗(陣門流)本山本禪寺 貴首 福井日進 頭本法華宗 本山寂光寺 貴首 大川日仰</p>	<p>京都 八本山会</p> <p>本山本満寺 貴首 伊丹日章 大本山妙満寺 貴首 伊藤日慈 大本山本園寺 貴首 上田日瑞 本山立本寺 貴首 野々垣日祐 本山妙傳寺 貴首 安藤日瑛 本山頂妙寺 貴首 及川日周 本山妙覚寺 貴首 瀨川日照 本山本法寺 貴首</p>	<p>本門佛立宗本山 宥清寺</p> <p>〒602 8336 京都市上京区一条通七本松西入滝ノ鼻町一〇五一 電話 〇七五(四六三)四六二〇(代) FAX 〇七五(四六三)四六五一</p> <p>住職 山内 日開 二十五世講有 執事 小野 山日住 事務局長 奥 順作</p>
<p>日蓮宗大本山 中山法華経寺</p> <p>〒272 0813 千葉県市川市中山二一〇一 電話 〇四七(三三四)三四三三 FAX 〇四七(三三四)一七九六</p> <p>貴首 新井 日湛 参 与 田代 浩敬 参 与 植田 行俊 参 与 渡辺 観樹 参 与 吉田 文堯 参 与 田中 貞奨</p>	<p>日興上人御聖廟 日蓮宗大本山 富士山法華本門寺根源</p> <p>〒418 0112 静岡県富士宮市北山四九六五 電話 〇五四四(五八)一〇〇四 FAX 〇五四四(五九)〇三〇三</p> <p>貴首 旭 日重 執事 川名 義顕 参 与 吉田 日綱 参 与 井野上 正文</p>	<p>日蓮宗霊跡本山 比企谷 妙本寺</p> <p>〒248 0007 鎌倉市大町一五一一 電話 〇四六七(二二)〇七七七 FAX 〇四六七(二二)六九六七</p> <p>貴首 早水 日秀 執事 立野 正泰 山務役員 一同</p>	<p>宗祖御降誕霊場 日蓮宗大本山 誕生寺</p> <p>宗祖御降誕八百年に向かつての祈り</p> <p>〒299 5501 千葉県鴨川市小湊一八三 電話 〇四(七〇九五)二六二一 FAX 〇四(七〇九五)二〇五五</p> <p>貴首 石川 日命 執事 橋本 宏信</p>
<p>徳川家康公報恩創建 日蓮宗由緒寺院 除厄安産飯匙の祖師・七面大明神奉安 瑞輪寺</p> <p>〒110 0001 東京都台東区谷中四二一五 電話 〇三(三八二)四三七三 FAX 〇三(三八二)七〇三三</p> <p>貴首 井上 日修</p>	<p>日蓮門下お題目初唱の霊場 日蓮宗本山東身延 藻原寺</p> <p>〒606 8376 京都市左京区仁王門通川端東入大塚町九六 電話 〇七五(七七二)〇五六二 FAX 〇七五(七五二)一〇〇四</p> <p>貴首 持田 日勇 総務 増田 寶泉 執事 富永 一道 " 中川 貫泰</p>	<p>日蓮宗本山 頂妙寺</p> <p>〒297 0026 千葉県茂原市茂原一二〇一 電話 〇四七五(二二)三二五三 FAX 〇四七五(二二)一一七三</p> <p>貴首 安藤 日瑛 参 与 伊東 隆司 同 宇根 海静 同 新林 昭源 執事 藤井 照孝 執事 二部 知雄 同 川合 陽雄</p>	<p>やくよけ祖師 日蓮宗本山 堀之内妙法寺</p> <p>〒166 0013 東京都杉並区堀之内三二四八一八 電話 〇三(三三一)六二四一 FAX 〇三(三三一)五〇〇七</p> <p>山主 嶋田 日新</p>

門連時報

京都理事會開催さる

平成二十五年十月二十四日(木)、日蓮宗本山本法寺(瀬川日照貫首)において、日蓮聖人門下連合会京都理事會が開催され、全門連及び京都門連役員各聖、地方門連として大阪門下懇話会理事長の計五十名が参列した。

午後一時、会場寺院の瀬川日照貫首を導師に仰ぎ、副導師に京門一、上半期事業報告について事を進行した。

渡邊照敏理事長が座長となり議事を進行した。

▼人事(事務局への連絡日を含む)

年月日	氏名	宗派	門連役職	就任	退任
平成二五・九・九	寺田完英 堀 智泰	法華宗真門流	常任理事	就任	退任
平成二五・九・九	堀 智泰 堀内浩善	法華宗真門流	理事	就任	退任
平成二五・一〇・七	岩崎広義 原田智光	日蓮正宗	常任理事	就任	退任
平成二五・一〇・七	柳下正則 二瀬智光	日蓮正宗	理事	就任	退任
平成二五・一〇・七	原 光明	日蓮正宗	理事	就任	退任
平成二五・一〇・七	岩崎広義 原田智光	京都門下連合会	理事	就任	退任
平成二五・一〇・一三	嘉儀日有 丹治日遠	日蓮正宗	顧問	就任	退任
平成二五・二二・一〇	佐藤義賢 久永晃顕	法華宗本門流	理事	就任	退任
平成二五・二二・一〇	齋藤舜駘 山田庸温	法華宗本門流	理事	就任	退任
平成二六・一・一	伊丹日章 田仲日紘	京都門下連合会	顧問	就任	退任
平成二六・一・一	藤井照源 足立真正	京都門下連合会	常任理事	就任	退任
平成二六・一・一	原田智光 藤井照源	京都門下連合会	理事	就任	退任



平成二十五年十月二十四日 日蓮聖人門下連合会京都理事會 於本山本法寺

京都日蓮聖人門下連合会 結成六十周年記念式典開催

京都日蓮聖人門下連合会結成六十周年記念式典が、十月九日AN Aクラウンプラザホテル京都で開催され、約百名の僧侶が出席し、慶事を祝った。

京都の歴史を遡ると、日蓮聖人の近畿御遊学十二年、又法孫日像上人の帝都弘教が始まるが、各宗・各流の教化活動の歴史の中、昭和二十七年四月八日、京都仏教界花祭り当番宗派が日蓮宗に当たった年、日蓮宗のみならずお題目教団すべてが団結して奉行しようとするえまとなり、花祭り法要が無事成就した。

ことから、京都門下連合会スタートし六十年を迎える事となった。あたくも昭和二十七年



京都日蓮聖人門下連合会 設立六十周年記念式典

事務局より報告、承認。二、京都門連事業報告を京門連理事長藤井照源師より報告、了承。三、地方門連活動に関する件を大阪門下懇話会理事長東孝信師より報告、了承。四、その他の件につき、①「オラトリオ日蓮聖人」演奏会について、日蓮宗本山藻原寺持田日勇貫首より各派協力への御礼が述べられ、楽譜は門連に寄贈されることが報告された。②法華宗真門流総本山本隆寺より、文化庁の社寺について二十年ぶりの重要文化財として指定されたことが報告された。③日蓮宗本山妙覺寺及川日周貫首より、門連の宗祖御降誕八百年事業に向けた活動の中で、現在も京都に残る伝統文化を推進して欲しいとの意見が出された。④京門連藤

大阪日蓮聖人門下懇話会 事業開催

第二十一回合同御会式

日蓮聖人合同御会式が十一月三日、大阪市中央区の妙徳寺に於いて開催、東理事長導師にて法要を奉行され、多数の会員教師と檀信徒が列席した。法要後、有本智成師による「久遠の子」と題した講演と、旭堂南啓師匠による「由比ヶ浜」の一節の講談が行われた。

第二十四回研修会

研修会が十一月十五日、ホテルアウイーナに於いて文学博士中尾堯先生の講師で開催された。講題は「日蓮聖人門下の分立と展開」で、京都町衆の門下の分立と展開の役割や各本山への護持のあり方が講義され、後、先生を囲んでの懇親会が開かれ、会員の親睦を深めた。

最後に全国門連監査別所日山師の万歳三唱でにぎやかに終了した。門下連合会の大切さを感じる記念式典であった。

この式典の企画立案は、記念プロジェクトによるもので、そのメンバーは左記の通りである。

- 松下日肆(本門法華宗)
- 藤井照源(日蓮宗)
- 赤塚高明(法華宗陣門流)
- 二之部知孝(日蓮宗)
- 橋本一妙(日蓮宗)
- 赤田泰宏(法華宗本門流)
- 山本晃道(顕本法華宗)

(藤井照源)

日蓮聖人註画讚

小松原山鏡忍寺宝蔵



A4判上製本箱付/112頁/
オールカラー
発願・小松原山本山鏡忍寺
監修・中尾堯
頒価5,250円(税込・送料別)



日蓮宗を代表する貴重な御伝記を初めて解説・読み下し、現代語訳を添えました。



